

【 日 出 町 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

1 調査結果の分析

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校：国語

小学校 6年生 国語	平均正答率 全体	学習指導要領の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率				
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	国語への関 心・意欲・ 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能
全国	63.8	72.3	54.5	81.7	53.5	57.6	72.3	54.5	81.7	53.5
県	67	76.0	57.0	83.8	57.1	60.6	76.0	57.0	83.8	57.1
日出町	66	77.0	57.5	83.1	55.2	62.5	77.0	57.5	83.1	55.2

○教科全体の平均正答率は、全国平均を2.2ポイント上回っている。

○領域別平均正答率、観点別平均正答率も全てにわたり、全国平均を上回っている。

○「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるか」を問う問題では、正答率が78.3%（全国80.7%）と低く、「食べ物がくさる主な原因」や「食べ物をくさりにくくするための方法」等をとらえることができず、内容を丁寧に読み取ることに課題が見られる。

○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるか」を問う問題では、正答率が全国平均に比べ約10%低い。同音異義の熟語から文に合った正しい漢字を見つけ出すことに課題がある。

○正答率が60%未満の児童の割合は、35.4%（全国39.4%）で、全国と比較して低い。

小学校：算数

小学校 6年生 算数	平均正答率 全体	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関 心・意欲・ 態度	数学的な考 え方	数量や図形 についての 技能	数量や図形 についての 知識・理解
全国	66.6	63.2	52.9	76.7	68.3		62.2	73.6	70.1
県	67	64.1	52.0	77.1	68.2		62.8	74.4	69.1
日出町	67	64.4	49.9	78.7	69.0		62.3	74.2	72.7

○教科全体の平均正答率は、全国平均を0.4ポイント上回っている。

○領域別正答率の「量と測定」を除いて、全ての観点で全国の正答率を上回っている。

○「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できるか」を問う問題では、正答率が37.8%（全国43.9%）で、言葉や数、式を使って書く記述式の問題に課題が見られる。

○正答率が60%未満の児童の割合は、35.4%（全国35.6%）で、全国平均に比べやや低い。

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

1 調査結果の分析

中学校：国語

中学校 3年生 国語	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率				
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	国語への関 心・意欲・ 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能
全国	72.8	70.2	82.6	72.2	67.7	76.5	70.2	82.6	72.2	67.7
県	74	72.2	83.6	73.5	66.3	78.3	72.2	83.6	73.5	66.3
日出町	77	76.1	85.4	76.6	69.3	81.3	76.1	85.4	76.6	69.3

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を4.2ポイント上回っている。
- 領域別平均正答率、観点別平均正答率も全てにわたり、全国平均を上回っている。
- 「文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえることができるか」を問う問題では、正答率が61.7%（全国61.5%）で、文章の内容を理解したり、文章の特徴を捉えて整理したりすることに課題が見られる。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、9.8%（全国14.2%）で、全国と比べて低い。
- 教科全体の平均正答率は、全国平均を4.2ポイント上回っている。

中学校：数学

中学校 3年生 数学	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関 心・意欲・ 態度	数学的な見 方や考え方	数学的な技 能	数量や図形 についての 知識・理解
全国	59.8	63.8	72.4	40.8	56.3		51.0	63.9	71.3
県	61	64.6	71.3	44.7	57.0		51.8	65.4	72.0
日出町	63	69.0	74.6	49.0	55.2		55.0	63.9	75.9

- 領域別正答率の「資料の活用」が全国平均に比べ1.1ポイント低いが、その他は、全ての観点で全国の正答率を上回っている。
- 「確率を用いて不確定な事象を捉え考察し、数学的に表現したり確率を求めたりする」の問題では、正答率が59.1%（全国72.8%）と低い。確率を求める際の起こりうる場合の数について調べることに問題がある。樹形図や表を用いて落ちなく数えることができるように指導する必要がある。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、29.2%（全国32.0%）で、全国と比べて低い。

中学校：英語

中学校 3年生 英語	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケー ションへの関 心・意欲・態 度	外国語表現 の能力	外国語理解 の能力	言語や文化 についての 知識・理解
全国	56.0	67.9		55.6	45.8		1.8	44.7	64.7
県	55	66.4		55.3	45.4		1.7	43.1	64.3
日出町	59	68.9		59.6	49.0		1.5	44.7	68.7

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を3ポイント上回っている。
- 観点別正答率の「外国語表現の能力」が全国平均に比べ0.3ポイント低いが、その他は、全ての観点で全国の正答率を上回っている。
- 「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができるか」を問う問題では、正答率が25.8%（全国32.8%）で、文章全体を読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断することに課題がある。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、29.9%（全国37.5%）で、全国と比較すると低い。

2 具体的な改善方法

学校全体で取り組む授業改善

- 各学校の「授業改善の5点セット」における検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらPDCAサイクルを機能させる。
- 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」、学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」、追求すべき事柄を明確にする「課題」、追求した結果を明確にする「まとめ」の設定を確実に行う。
- 自己の考えをもち、表現すること・様々な人との対話・協働により自分の考えを深化・拡充する等、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業を工夫する。
- 全教員による互見授業を実践・推進する。各学校の取組指標に基づいた授業を行う。
- 管理職は、授業観察記録や観察シートをもとに授業観察を行い、観察後は授業改善やキャリアシステージに応じた指導・助言を行う。
- 自分の考えを広げたり、深めたりするために効果的な交流の場を設定する。思考ツールや「言語活動育成ハンドブック」を活用し、各教科等における思考力・判断力・表現力を育成する。
- 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「授業アイデア例」を活用した授業や研修を積極的に行う
- 教科を問わず指導過程の中で、相手を意識し、立場を明確（根拠や理由付け）にして表現する場を設け、話す・書く力を育成する。

習熟の程度に応じた指導の充実

- 小学校では4, 5, 6年生の算数、中学校では数学、英語で学校の実情に応じ、年間通して行う。
- 単元テストにより学習の定着状況を把握する。定着が不十分な場合は、補充学習を行う。補充学習は、小学校では放課後の時間を計画的に設定し、中学校では、放課後、職員室前の机や少人数教室等を利用した取組を実施する。
- 付けたい力を明確にし、「具体的な評価規準」に基づく確かな見取りと「努力を要する状況」の児童生徒や特別な配慮を必要とする児童生徒への具体的な手立てを講じる。必要に応じて個別指導を行う。

学力向上支援教員等の授業から学ぶ

- 学力向上支援教員（小学校:国語、〈理科〉 中学校:数学、理科）、習熟度別指導推進教員（小学校:算数 中学校:英語）の公開授業に積極的に参加（一人最低1回）し、学んだことを各自の実践に生かす。
 - ・公開授業の事後研には、原則参加し、実践の交流を図る。
 - ・指導案、指導計画、ワークシート等作成したものは、町の共通ホルダーで共有し、活用出来るようにする。

中学校教科部会の充実を行う

- 部会内での授業研究を実施し、授業改善へ向けた取組を推進する。
- 日出町学力向上推進委員会ワーキンググループ会議において、学力調査について分析・考察した結果や対策について国語・数学・英語の各教科部会へ還元する。

町標準学力調査を活用する

- 12月末に、小学校4年生～中学校2年生全員を対象に実施する。（小学校は、国語・算数・理科）
中学校は、国語・社会・数学・理科・英語）
- 調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにし、次年度につなげる。

家庭、地域との連携

- 小学校では、授業のサポートや補充指導等に、学習ボランティアの積極的な活用を図る。
- 規則正しい生活習慣づくりのため、「10（11）—7—1運動」「テレビやゲームで1日2時間以内」の推進を図る。
- 家庭での読書の重要性について学校だより等を活用して啓発し、読書習慣の確立を図る。

【 日 出 町 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか」の問いに、「そう思う」と答えた児童は34.6%で、全国平均より1.6ポイント高い。
- 「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の問いに、「1時間以上する」と答えた児童は71.4%で、全国平均より5.3ポイント高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに、「持っている」と答えた児童は69.6%で、全国平均より3.7ポイント高い。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の問いに、「ある」と答えた児童は81.5%で、全国平均より2ポイント高い。
- 「本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・図書室、地域の図書館にどれくらい行きますか」の問いに、「週に1回以上行く」と答えた児童が25.5%で、全国平均より8.3ポイント高い。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に思っている子は81.8%で、全国平均に比べ、4ポイント低い。
- 「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の問いに肯定的に答えた児童は68.9%で、全国平均より5.2ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「朝食を毎日食べていますか」に対して、85.7%の児童が「毎日食べている」と答えている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに、「起きている」と答えた児童は59.1%で、全国平均より0.4ポイント高い。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「ある」と答えた児童は、30.1%で、全国平均に比べ、8.7ポイント低い。
- 先生が自分のよいところを認めてくれていると肯定的に思っている児童は、85.3%で全国平均より0.8ポイント低い。

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか」の問いに、肯定的に答えた生徒の割合は、77.1%で、全国平均に比べ2.3ポイント高い。
- 「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」の問いに、肯定的に答えた生徒の割合は、78.6%で、全国平均と比べ5.8ポイント高い。
- 「英語の勉強は好きですか」「英語の授業はよくわかりますか」の問いに、肯定的に答えた生徒の割合は、全国平均に比べ、それぞれ9ポイント、5.4ポイント高い。英語の授業や学習に対して肯定的な回答をしている生徒の割合が高い。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」の問いに、肯定的回答な回答をした生徒の割合は49.6%で、全国平均と比べて、6.2ポイント低い。
- 「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに、国語、数学、英語のすべての教科で、肯定的回答は全国平均を下回っている。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「朝食を毎日食べていますか。」に対し、94.3%の生徒が肯定的回答をしており、全国平均と比較し、1.2ポイント高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに、「起きている」と答えた生徒は62.8%で、全国平均より5.8ポイント高い。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「ある」と答えた生徒は、25.6%で、全国平均に比べ、3.4ポイント低い。
- 「学校の規則を守っていますか」の問いに、「守っている」と答えた生徒は62.8%で、全国平均に比べ、4ポイント低い。
- 先生が自分のよいところを認めてくれていると肯定的に思っている生徒は、80.1%で全国平均より1.4ポイント低い。

2 日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか。」の問いに対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中ともに全国平均を上回っており、好ましい傾向にある。今後も児童生徒の主体的・対話的な学びを促すような課題設定や、問題解決的な展開の授業づくり等に取り組んでいく。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対しては、中学校は全国平均に比べ肯定的な回答をした生徒の割合は高いが、小学校は低い。ペア学習やグループ学習を日常的に取り入れ、対話的な学習を意識した授業展開を構築していく必要がある。また、何のために対話をするのか（目的）や何を話し合わせるのか（話し合いの必然性）、どのようなペア、グループを編成するか（学習形態）など、授業のねらいと指導の意図をはっきりさせて取り組む必要がある。
- 家庭での学習時間は、小・中ともに「一日に1時間以上している」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べて高く、家庭学習の習慣化がある程度できていると考えられる。今後も、授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、評価と指導を充実させていく必要がある。
- 「勉強は好きですか」の質問に対して、小学校では国語、中学校では英語の割合が全国平均に比べて高い。今後も、身近な事柄と関連のある、学習したことが生活に役立つことを実感できるような課題設定、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」と感じるような授業展開を大切にしていけることが重要である。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 朝食の摂取率は、小・中ともに「日出町アクションプラン達成指標85%」は超えているが、小学校は全国平均と比べてやや低い。基本的な生活習慣の確立のために ※「10(11)－7－1運動」の推進を今後もすすめていく。
※午後10時（中学生は11時）までに寝て、午前7時までに起き、茶碗一杯（食パン一枚）の朝ご飯を食べようという運動。
- 先生が自分のよいところを認めてくれていると肯定的に思っている児童生徒の割合は、全国平均に比べると低い。子ども一人一人についての理解を深め、日常の授業や学校生活で子どもたちとの関わりを深めていく必要がある。
- 「自分にはよいところがあると思っていますか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国平均と比べ低い。支持的風土の学級づくりを基盤としながら、授業はもちろん、特別活動など学校の教育活動全体の中で、よりよい人間関係の構築をめざした取組の充実が必要である。
また、児童生徒一人一人の学習状況を把握しながら、習熟の程度に応じた指導の手立てを工夫するなど、全員が「活躍できる」「わかる、できる」授業の取組を行っていくことが重要である。

【 日 出 町 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底したか」に対し、全ての学校が肯定的な回答をしている。学習規律の確立は、学びを支える基盤であると捉え、学校全体で共通理解を図り、取組を進めている。
- 「国語、算数の補充的な学習の指導を行っているか」に対して、全ての学校において肯定的な回答をしている。「わかりたい」を思う児童の気持ちを大切に、時間確保の工夫を考えながら、今後も組織的に取組を進めていく。
- 全ての学校において、保護者や地域の人が学習支援や学校行事などの活動に参加しており、保護者や地域の人との協働による活動が行われている。そのような取組は、学校の教育水準の向上に効果があると考えられる。
- 「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の工夫改善」「発展的な学習の指導」が十分にできていないと考えている学校が多く、学習内容の工夫や授業改善に課題が見られる。
- 「近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する目標設定など共通の取組を行っている」「近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行っている」と肯定的に答えた学校はともに1校のみで、県平均・全国平均より肯定率が低い。

中学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「講師を招聘している」「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」「学校外での研修に積極的に参加している」「校外の研究会に定期的・継続的に参加している」については、全ての学校で取組を行っている。研修に対する意識が高く、日常の教育活動に生かそうとする姿が窺える。
- 言語活動については、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取組を進めることができている。
- 学級経営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。チーム学校としての組織的な取組が定着している。
- 授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行っており、特別支援教育についての理解がすすんでいる。
- 「教育課程の趣旨について家庭や地域との共有を図る取組」については、今後、開かれた教育課程をめざし、学校運営協議会等を活用し、家庭や地域に広げていく必要がある。

2 日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 児童生徒の主体的な学習を促すために、問題解決的な展開の授業や教科のねらいに適した言語活動の設定について、校内研究会等の機会を通して、教師一人一人の授業改善や授業力アップを図る。また、児童生徒が自分の考えを安心して言える支持的風土の学級づくりに関しても、生徒指導の三機能を生かしながら、授業実践に取り組んでいく。
- ワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「町内全体で取り組みやすく、効果的」な授業改善の方法等を考え、学力向上推進委員会で提案する。「日出町学力向上推進委員会」は年3回実施し、各校の学力向上に係る取組状況の交流や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行う。町内全体で取り組んでいく。
- 各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、小・中学校の取組に関する意見交流をすすめる、小・中学校が抱える課題を小・中の教員全体で共通理解を図り、連携して授業改善等の取組を進めていく。
- 「定期的な教科部会を行い、教科指導力の向上を図る」「めざす授業像を生徒と共有した上で、学習目標を設定し、授業の振り返りを行う」「生徒による授業評価を実施し、授業改善に反映させる」ことにより、中学校学力向上対策3つの提言を着実に推進する。
- 今後も、学校運営協議会を通して、教育目標や課題について協議を行うなど、学校・家庭・地域が情報を共有し、三者の連携・協働体制を構築していく。
- 家庭学習の習慣化、充実のため、「家庭学習の手引き」で啓発を図り、保護者と連携し、取組を進めていく。